

# What ISIT?

ISIT : Institute of Systems & Information Technologies/KYUSHU

## 尾身科学技術政策担当大臣 来福

### 「システムLSI関連企業との意見交換会」

科学技術振興事業団 研究成果活用プラザ福岡 10月20日

尾身科学技術政策担当大臣が、福岡市で開催された「タウンミーティング・イン福岡」及び「九州地域産学官連携サミット」への出席にあわせて、ソフトリサーチパークを視察しました。

LSI関連企業の福岡集積が進み、福岡県システムLSI設計開発拠点化構想(シリコンシーベルト福岡)がスタートした中で、福岡地域の主要LSI関連企業等の代表者との意見交換会が実施されました。ISITからは牛島研究所長が出席して産学連携への取り組み状況を説明しました。

「福岡地域では、大学、企業及び科学技術振興事業団等がどのように連携して行こうとしているのですか。」という大臣の質問に対して、出席の企業代表者からは「今後のシステムLSIの発展は企業の連携なしではありません。」「設計開発の専門的な人材養成が急務であり、福岡県を中心に産学官が協力して設置される福岡システムLSIカレッジに期待しています。九州の大学の優れた先端的研究成果を学び、活用することで、産学連携がさらに深まるでしょう。」「九州には各社の製造・組立工程がすでに集積しており、設計開発分野での連携が進めば、最も先進的な取り組みが可能になります。」などの意見が出されました。

また、会場では各企業の製品展示があり、ISITはコンピュータに代表される情報機器と人間とのインターフェースに関する研究について、オフィス移動ロボット『百知～ももち』によるデモンストレーションを行いました。



尾身幸次大臣



ISIT木室研究員がロボット『百知～ももち』を使って研究状況を説明



意見交換会の模様



牛島所長がISITの取り組みを説明

# ◆ 英国スコットランド調査紀行

8月22日～28日

研究所長 牛島和夫

8月下旬に福岡県システムLSI設計開発拠点推進会議が計画した先進地調査団(団長:鎌田九州電力社長、顧問:麻生福岡県知事)に参加して、スコットランドのアルバプロジェクト等を視察しました。

スコットランドは連合王国(UK)の一部ではありますか人口510万人、面積7万8千平方kmで、人口は福岡県と同等、面積は北海道とほぼ同じです。エジンバラとグラスゴーが2大都市で、クルマでほぼ1時間の距離にあるというのも福岡県との比較で興味深いものがあります。ブレア首相が率いる労働党政権に交代してから1999年にスコットランド議会が発足し、地域自治の拡大を感じます。(アルバはスコットランドの古称)

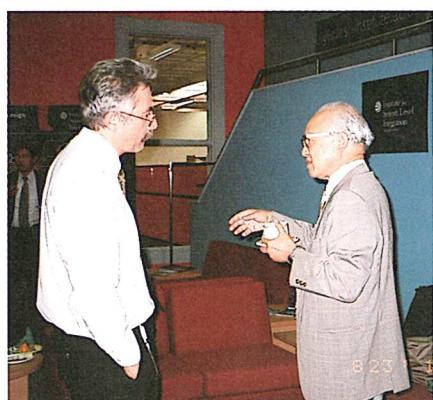
視察の主なものは、(1)アルバプロジェクトの説明を聞き質疑を行う。(2)エジンバラ大学電気電子工学科で研究プロジェクトや起業例について説明を受ける。(3)エジンバラ周辺に立地する半導体設計企業を見学する。

アルバプロジェクトはスコットランドを半導体、エレクトロニクスデザインの世界的拠点とすることを目指し、1997年にスコットランド開発公社が主体となって始めたものです。エジンバラ市郊外にアルバセンターを設立し、各機関の調整、資金援助等プロジェクト推進のエンジンとなっています。

私はセンター内に併設されているISLI(Institute for System Level Integration)に最も関心を持ちました。システムLSI設計や関連分野の高度技術者の養成に絞った高等教育機関です。毎年60名の大学院生を受け入れています。エジンバラ、グラスゴー、ヘリ

オット・ワット、ストラスクライドの4大学の半導体設計関連の教員団26名が協力してカリキュラムを遂行しています。前2大学は16世紀に建学された伝統校です。ワットというのはジェームズ・ワットにちなんでいます。

ISLIでは、まず1998年に上記専攻分野による世界最初



ISLI所長・グラスゴー大学スティーブ・ボーモント教授と筆者



調査団一行(アルバセンター前)

の修士課程を発足させ、引き続き博士課程を開設しました。博士課程は修業期間4年で、PhDではなくEngineering Doctorateという称号が授与されます。

学位論文の課題は周辺に立地する企業から提案され、教員団の協議を経て採用されます。その課題に従事する学生は、当該企業から財政的援助を受けながら博士論文研究に没頭することができます。企業から提案されるテーマは企業にとって重大関心事ですから、それが他に知られることは望ましくないわけですが、企業の機密保持と研究の公開性との問題は必ずしも解決してはいないようでした。しかしながら、解決を待っていたのではこのような教育機関は発足できません。運営しながら問題解決を図って行く取り組みと聞きました。

12月に発足した福岡システムLSIカレッジとの違いのひとつは、学位を取得できるところにあります。我が国では文部科学省の設置認可との関係で学位授与を含めた仕組みをISLI風に作るのは、非常に困難な気がします。

VCX(Virtual Component Exchange)の活動も関心をひきました。システムLSIの設計は、1企業の知的財産だけに頼っていたのではなくほとんど困難です。知的財産の取引市場の整備を目的に1998年に設立されたのがVCXです。インターネット上で運営されています。

## 福岡県システムLSI設計開発拠点化構想 (シリコンシーベルト福岡)

福岡県が産業経済の拠点化をめざして取り組む、頭脳産業集積の強化策のひとつです。

福岡県に集積するLSI設計開発の知的集積、産業集積を核に、アジア(韓国、九州、台湾、シンガポール等を結ぶ半導体生産のベルト地帯)地域の中核となる設計開発拠点をめざします。

**推進組織** 福岡県システムLSI設計開発拠点推進会議

事務局:財団法人 福岡県産業・科学技術振興財団

**具体的な取組** ・福岡システムLSIカレッジの開設(12月3日オープン)

・システムLSI研究・ビジネス最前線(セミナー・交流会)等開催

・システムLSIベンチャー、関連企業等への資金面での支援 など

(財団ホームページより <http://www.ist.or.jp/lsi/index.htm>)



シリコンシーベルト  
福岡

## Report 2

### ◆第32回定期交流会

#### 『福岡におけるADSL\*利用体験』

~九州ギガポッププロジェクト(QGPOP)による

##### ADSLモニタリング~

10月9日

\*非対称デジタル加入者線

【講師・コーディネータ】 ISIT 大部 勝基

【パネラー】

九州大学 情報基盤センター 岡村 耕二 助教授

九州大学大学院 システム情報科学研究院 坂本 幸功 助手

(株)日立製作所 産業システム事業部 柴田 尚明 氏

九州大学大学院 システム情報科学研究院 下川 俊彦 助手

ISIT 平原 正樹 研究員

既設の電話回線を使い低コストで高速データ通信が可能なADSLは、低価格化競争により急速に普及しつつあります。通信速度は下りで最高8Mbpsですが、中継局までの距離等により変化し、実験計測では下りで400kbpsを確保できており、データストリーミングコンテンツやネットミーティングへも十分利用できます。一方、常時接続に伴いウィルス感染や不正アクセスなど外部からのアタックが確実に増えますので、十分なセキュリティ対策が必要になります。今回は各種の利用形態を想定して実験しました。



大部氏

企業の社内LANと接続できればSOHO(Small Office/Home Office)普及を支援する有効な手段となります。フリーソフトのRealSystemを使い自宅からライブ放送を行いましたが、エンコーダー(圧縮、暗号化などの符号化)PCの性能次第では320×240dpiの画像も送信可能でしょう。ADSLに接続して自宅のサーバーを公開するに当たり、Linuxを家庭のゲートウェイとしてInternet接続する場合の各種設定方法についてまとめました。

(<http://his.lucky.org/doc/adsl.html>)。CATVとの比較では、Web、FTP、NetMeetingを行う上で特に差はなく、どちらも満足できる性能を確認できました。

ADSLは安く、速い通信手段ですが、利用者からみたインターネットの本質は従来のままでです。インターネットに常時接続され、家庭から情報発信できるように、サーバ機能が必要とされる時期が近づいています。

固定IPアドレスが付与されないとリアルタイムでの情報交換はできず、SOHO等での利用も限られたものになってしまいます。また、ひとつの家庭で複数のアドレスを必要とする時代が来るでしょうし、情報発信のためには高速な上り回線も必要になります。

岡村氏

坂本氏

柴田氏

下川氏

平原氏

## Report 4

### ◆九州大学アジア学長会議

#### 『ISITの产学連携への取り組み』牛島所長報告

ISITは、産学官の連携を推進し地域情報関連産業の発展への寄与を目的として福岡市等により設置されました。

先端的な研究を行う研究室のほかに、プロジェクト推進部、研究企画部という支援機構が充実しています。これまでに大学や企業等と実施した研究プロジェクトの中には、先端的ではないが産業界にとって重要な技術でありながら、大学にとっては面倒とも考えられるテーマを、ISITの支援機構が仲介して問題解決を図ったケースが多くあります。

【アジア学長会議】アジアについて問題意識を共有し、九州大学が中心となってアジアの発展に貢献するために、国境を超えた大学と社会連携のネットワーク構築を目指し、産学官連携、国際協力などについて協議する。



## Report 3

### ◆第15回 技術セミナー

(ISIT・QGPOP ジョイントセミナー)

#### 『インターネットの世界を広げるモバイルIP』

##### 1『インターネットにおける移動体通信プロトコル』

慶應義塾大学 理工学部 寺岡 文男 教授



ノートPCなどの携帯端末がインターネット内を移動すると、IPアドレスが変化して継続的な通信ができず、またIPアドレスの不明な相手に通信を開始することもできません。移動先では新たなIPアドレスが自動的に割り当てられます。携帯端末の接続位置に関係なく一定のIPアドレス(ホームアドレス)で通信を開始でき、移動しても通信を継続できることを実現するための通信プロトコルがMobile IPです。現在運用中のIPv4用Mobile IPは1996年に標準化されました。

Mobile IPv4は既に世界中で運用されていたIPv4との互換性を重視して設計されたため、パケットがHA(ホームエージェント:ホームアドレスを登録する)を経由する必要から通信経路が冗長化し、同時にHA障害時の通信不能などの問題があります。

Mobile IPv6では、携帯端末が移動先で新しいIPアドレスを自動設定するようにし、また送信／受信端末を定義するためのヘッダー部を拡張することにより、接続後はHAを経由しない最適経路での通信が可能となります。ヘッダー部の拡張によりオーバーヘッドが大きく、また最初の接続登録においてはHAを経由するためHA障害時の問題もあります。そこで移動端末の認証法を含めて現在プロトコルの標準化作業が進められています。

一方、我々はネットワークアーキテクチャの観点から考え直して、ヘッダー部がなくセキュリティの問題解決にも有効であるLIN6(Location Independent Networking for IPv6)というプロトコルを提案しています。

(ソースプログラム公開中 <http://www.lin6.net/>)

Mobile IPは既に標準化されているのに、キーアプリケーションが存在しないことなどからほとんど普及していません。IPv6の標準化がカギと言えますがあと数年は必要でしょう。MIS社(モバイルインターネットサービス株式会社)がMobile IPv4による無線LANを利用できるサービスを試験運用開始しました。[\(http://www.miserv.net/\)](http://www.miserv.net/)

##### 2『世界水泳大会における

#### 高速インターネット実証実験報告』

九州大学 情報基盤センター 笠原 義晃 助手

(無線LAN テモ)

九州大学大学院 システム情報科学府 大森 幹之 氏



7月に開催された世界水泳選手権福岡大会で、ISITと九州ギガポッププロジェクト(QGPOP)は報道および大会関係者に対して高速ネットワーク環境を提供する実証実験を実施しました。Mobile IP技術を利用した無線LANやマルチキャスト技術を利用した各会場間での監視用動画交換などの実験をおこして、高速インターネット環境を提供しました。

無線LANはISIT等の研究成果を反映してMIS社が開発した機器により各会場で実験しました。これはIEEE802.11b(2.4GHz帯)をベースに、MIS社が独自開発のユーザ認証技術とMobile IPv4仕様のサブセットにより、高速ハングオーバー対応を実現しています。マリンメッセでの無線LAN実験中止やIPv6による実験中止という残念な部分はありますが、実用化間近な技術とその運用技術を確認できました。

(詳細につきましては、ISITプロジェクト推進部までお問い合わせ下さい。)

# ◆福岡ソフトリサーチパーク(SRP)5周年記念イベント

福岡SRPセンタービル(愛称:ももちキューブ) 8月3・4日

都市型産業の育成と情報関連産業・研究開発型企業などの振興の拠点として整備が進められています福岡ソフトリサーチパーク(SRP)地区は、今年、誕生から5周年を迎え、8月3、4日の両日、記念イベントを開催しました。

面積6.3haのSRP地区には、地場の情報関連企業などの集合ビルである「福岡ソフトリサーチパークセンタービル」と大手メーカー・企業グループの「麻生・IBMグループ」「松下電器産業」「日本電気」「福岡シティ銀行・大宇グループ」「富士通」「日立製作所」の各ビルがあります。SRP地区は平成8年から企業の立地が始まり、今は110社、6千人を超える街になりました。現在でも大手企業等の進出が続いている、全国的に見ても情報関連企業の集積地としては有数の規模です。

福岡市とSRP連絡会(地域内企業の代表者の集まり)は、SRP地区を市民の皆さんに親しんでいただくために、これまでの歩みと今後のIT社会を展望するイベントを開催しました。

ISITはこれまでの研究成果の一部を展示・実演するとともにマルチメディア市民講座を開催しました。これはコンピューターと社会との関わりを身近な話題の中から展望し、研究所の活動内容などを広く市民の皆さんに知っていただくことを目的として毎年実施しているものです。



企業各社はSRPセンタービル1Fロビーに製品等のPRパネルを展示(写真はその一部)



山崎市長、記念祝賀会で挨拶

## ◆特別講演 8月3日 『インターネットが社会にもたらしたもの』

青山学院大学大学院国際マネジメント研究科  
教授 野口 悠紀雄 氏



結論を述べますと、新しい技術の進展に伴い仕事のやり方、社会のしくみ、一人一人のものの考え方などいろいろなものが新しくなっていかなければならぬということです。現在、IT関連産業は落ち込みを見せていましたが、ITそのものにバブルはありません。ITの技術変革から逃れることはできません。

アメリカのGEはインターネットを活用して部品調達をオープン化しコスト低減を実現しましたが、成熟していたと思われていた自動車産業の生産方式の大変革でした。

一方、百科辞典で有名な大手企業は、マイクロソフトが発売したネット百科事典に対応して同様にネット上で情報発信を行うようになりましたが、無料化を余儀なくされています。このようにITは誰もが認める優れた事業内容のビジネスを破壊するネガティブな面もあります。

日本では再販制度があり安く売れないため、インターネット書籍販売の利用はわずかです。これは技術的に使えて仕組みが変わらなければ使えない例です。アメリカは系列外企業との取引を自由に行いBtoBのビジネスで成功しました。日本が系列会社との関係を断ち切れるか、仕事のやり方を変えられるかどうかが問題です。

21世紀への生き残りはITへの対応で決まると言えます。ユーザーにとって有用な情報を提供できるかどうか。インターネットで何ができるかを正確に把握することが重要です。

## ◆記念講演・ITセミナー 8月3日 『ITビジネス最前線～投資家から見た魅力ある企業』

モバイル・インターネットキャピタル株式会社  
代表取締役社長 西岡 郁夫 氏



IT革命という言葉はIT化自体が目的という印象を与えますが、本来はITを活用した「商売の革命」であり、IT化を商売に直結させて何ができるのかを考えるべきです。福岡県のある造り酒屋は在庫管理システムを構築するとともに、先代からの取引先を見直し、新たな顧客を開拓しました。自ら酒を作る社長が、酒を売ることの難しさも十分勉強しているのです。

一方、ある大会社はインターネット通信販売を始めましたが、単にインターネットを使っただけで、状況は何も変わりませんでした。顧客に喜んでもらうための本来の工夫をしなかったのです。

IT化は情報システム部長に任せのではなく、まず社長が営業部長や工場長と議論を行うことが重要です。社長は技術的な前のめりと商売のことを考えるべきなのです。

インテル、マイクロソフトなどITベンチャー企業が主役となり景気拡大したアメリカで、見落としてならないことはベンチャー企業の成長そのものではなく、上場後それに投資した個人投資家が儲かり、これが経済活性化の要因になったことです。ベンチャー企業はIPO(株式公開)の後がんばって、一般投資家に評価される必要があります。最近のITベンチャーには、事業内容を理解しない出資者が資金計画が緩いままで出資するケースがありますが、資本金でキャッシュフローを補う会社の経営は成り立ちません。ベンチャー企業はとにかく金のかからない組織にして、単年度黒字、単月黒字を目指してがんばりぬくことが大切です。

## Report 6

# ◆マルチメディア市民講座

8月4日

### 基調講演

## 『e-教育を支える最新のIT』

～インターネットによる遠隔外国語学習システムの研究開発～  
九州大学大学院 言語文化研究院 岡野 進 教授

IT化の進展に伴い、私たちの生活は大きく変わろうとしています。教育の現場も例外ではなく、ここにもIT化の波が押し寄せてきています。

社会的な背景として少子化の進展があります。高校卒業生の全員が大学へ入学する時代が到来しようとしています。これに伴い、大学においても授業のレベルを維持するとことが困難になり、授業のレベルを下げるか、学生に補習を行う必要が生じて来ます。それは教員の負担となります。

ファミコン、プレイステーションで育ったデジタルキッズと呼ばれる世代が大学の門をくぐるようになっています。学生のメディア対応の実態は、従来のスピーカー型から今はヘッドフォン型に変わりました。授業形態も、先生が黒板と紙を使って学生がスピーカーから流れる音楽を聞くような従来の授業から、ヘッドフォンで各自が好きな音楽を聞くような形態に変化すべきなのです。



「3D-IES」3次元仮想空間チャットシステムで、アバターをとおして遠隔地の相手とコミュニケーション中の場面

現在大学では、あたかも授業の目的は単位をとることであると考えているかのように、答えを自分で見つけ出すのではなく、指名された時だけ授業に参加する風景が多く目につきます。授業を共有できていません。このままでは電子メディアの申し子とも言うべきこうした若い人たちの可能性を引き出すことはできません。学生も新しい学習環境を求

めているのではないでしょうか。そのために、学生の学習意欲を引き出す環境をデザインするものとしてe-Learningと呼ばれる、サイバースペースに展開する学習環境のシステムの開発・導入が進められています。

九州大学では株式会社野村総合研究所等と共同開発に取り組み、3D-IESと呼ばれる3次元仮想空間チャットシステムを構築し、現在は北海道大学とインターネットによる遠隔教室実験を行っています。

システム内では、ニックネームで呼び合うアバターをとおして、遠隔地の学生等とリアルタイムコミュニケーションを行うことが可能です。

例えばドイツ語学習教室では、「間違いを気にせずドイツ語で意思疎通ができる、試験のための言語ではなく、実際にコミュニケーションのための言語として学べるようになった。」というような評価が多く出ており、ドイツ語を学習する学生も増えてきました。

e-Learningはこのように大学教育の活性化を引き出しますが、市民生活においても教育機会の拡大を実現できる手段なのです。

しかしながら、現在の教育体制ではハードウェアや教員のメディア対応力などの対応が十分ではありません。また、教材・コンテンツの開発は教育の商品化につながり、「知」が身近になる反面、従来の「知」のシステムが崩壊する危険性もはらんでいます。今後の普及に当たっては光と影を見極める必要があります。



### 研究紹介

## ITマスター入門編体験教室

～ロボットで学ぶコンピュータのしくみ～



情報技術に関する基本的知識を社会常識として確立させることを目的に開発され、「コンピュータは故障しない限りプログラムされたとおり動作する」という原理などを楽しみながら学習できる体験型電子教科書を楽しんでいただきました。

### 研究紹介

## オフィス移動ロボット「百知～ももち」

コンピュータに代表される情報機器と人間とのインターフェースに関する研究の一環として「実際の生活空間で人間とコミュニケーションができる移動ロボットのインターフェース技術」などを実証するための研究開発用ロボット「百知」は、大変な人気者でした。



### ◆中小企業経営者のためのIT経営セミナー

#### 「中小企業経営のためのIT化戦略

～eビジネス実践のために必要なこと～

日本アイ・ビー・エム(株)ゼネラルビジネス事業部 浜田 英子 氏



eビジネスは企業競争力強化のためにITを活用し、企業活動を変革させる取り組みです。外からインターネットでみたデータと企業内部データを連続して扱うことができれば、飛躍的に効率的になります。eビジネス成功の秘訣は明確なポリシーと、消費者にとって価値のあるものを提供することです。

### ◆インターネット消費生活セミナー

#### 「インターネットの楽しみ方とトラブル対処法」

(有)ビズネット取締役、(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会九州支部長 野口 博子 氏



インターネットの利用者の増大と同時にトラブルの相談件数も急激に増えています。プライバシー侵害、詐欺、不正アクセス、ウィルスなど様々です。トラブルを完全に防ぐことは難しいですが、防衛策を実施し、トラブル時の対処法を知っておいて楽しく活用することが大切です。



## ISIT新賛助会員様

平成13年9月1日以降、  
ご加入の会員様  
(平成13年11月30日現在)

賛助会へのご加入、誠にありがとうございます。

### ■法人会員

株式会社オービック福岡支店様  
(全法人会員数:67社)

### ■個人会員

伊達博様  
(全個人会員数:17名)



## 賛助会員ご加入のおすすめ

会員の皆さまのための特典を充実しました。

### ■賛助会員の特典

- 1 ISITが主催する定期交流会(年6回)、技術セミナー(年3回)等に無料で参加できます。
- 2 ISITが行う情報技術に関する技術コンサルティングを割引料金で利用できます。
- 3 ISITが発行する広報誌「What IS IT?」(年4回)や研究報告書等の刊行物の配布が受けられます。
- 4 ISITが保管する情報技術関係資料等の閲覧ができます。

### ■賛助会費

年会費 法人会員 1口 6万円  
個人会員 1口 1万円

入会についてのお問い合わせは総務部までお願いいたします。  
Tel:092-852-3450 担当:加茂、金丸

## Report 7

### ◆福岡市『产学研研究開発サポート事業』

#### 平成13年度採択テーマ決定

ISITでは今年度、福岡市からの受託事業として「产学研研究開発サポート事業」を始めました。

この事業は、情報関連分野において、大学等と連携して新技術・新製品の研究開発を行う中小企業に対して「助成金の交付」及び「事業化の支援」を行うことにより、サクセスマデルの創出を目指すもので、产学研連携を一層促進する新しい取り組みです。

今年度は9件の応募があり、審査委員会の厳正なる審査の結果、次の3件が助成対象事業として採択されました。1件あたり333万円が助成され、来年度は事業化に取り組んでいただきます。

- (株)インターネットトウキュウ、九州大学  
「多色レーザーを用いる光ファイバーディスプレイ装置の開発」
- 九州計測器(株)、大分大学  
「多重周波励磁スペクトログラム法による非破壊検査装置の開発」
- (株)クリーンシティ、福岡工業大学  
「空気調和ダクト立て部分の清掃ロボット開発」

ISITでは、この他にも、技術的な問題に対するコンサルティングや新しい技術の実用化に向けてのサポートなどを行っていますので、お気軽にご相談下さい。



## 新スタッフ紹介

所属 役職 氏名

第1研究室 研究員 松永多苗子

第3研究室 研究助手 清原将弘

ISITの総勢は49名です。(平成13年11月30日現在)



## ご来訪の皆さま

平成13年11月30日現在  
(敬称略)

お隣の韓国、中国から、団体の皆さまの訪問をいただきましたので、ご紹介します。

### ■韓国蔚山大学校学生研修団 31名 9月7日

韓国の東海岸、釜山の北に位置する蔚山大学校から、電子工学系3年生の皆さまに訪問いただきました。蔚山大学は福岡大学と協定を結び、様々な交流を進めています。



ISITでは本室研究員が人間とコミュニケーションできる移動ロボットのインターフェースに関する研究開発について紹介しましたが、次々に質問が飛び出し、「百知」を囲んでしばらくロボット講座が続きました。

### ■中国共産党中央党校訪日研修団

80名 10月17日

中国から共産党中央党校学員の皆さまに訪問いただきました。平成12年8月に交わされた中国共産党中央党校学員と日本の官民人士との相互交流の合意に基づき、外務省の受け入れ事業として実施されました。

中国共産党中央党校は党幹部候補生の研修を行う党中央研修教育機関です。



福岡では県・市などの行政機関と福岡ソフトリサーチパーク(SRP)地区の視察が実施され、株式会社福岡ソフトリサーチパークと合同でSRP地区整備事業の概要とISITの研究開発活動の概要を紹介しました。

この他にも多くの皆様方にお越しいただきました。貴重な情報交換、誠にありがとうございます。

#### ●平成13年9月以降の主なご来訪者

月/日	団体名	人数[人]
9 / 7	韓国蔚山大学校学生研修団	31
10 / 4	長崎大学工学部情報システム工学科	14
10 / 17	中国共産党中央党校訪日研修団	80
10 / 18	ザインエレクトロニクス株式会社 他	2
11 / 7	株式会社日立超LSI社長	1
11 / 7	宮崎県土木部管理課 他	2
11 / 29	米国加州テレコミュニケーションズ・インキュベーター 他	3
11 / 30	科学技術・学術政策局審議官 他	2

11月末までに、10団体、137名の方にお会いしました。

#### ●発行

財団法人 九州システム情報技術研究所 ISIT

Institute of Systems & Information Technologies/KYUSHU

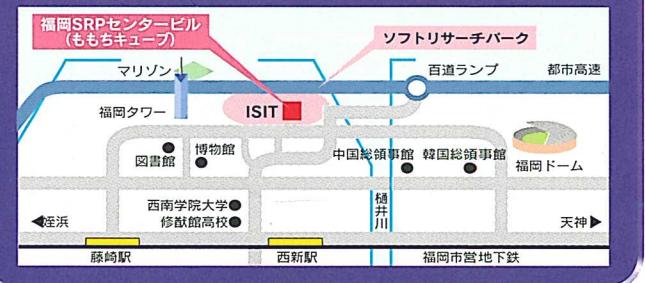
〒814-0001

福岡市早良区百道浜2丁目1-22-707(福岡SRPセンタービル(ももちキューブ)7F)  
Fukuoka SRP Center Building (Mochi Cube) 7F 2-1-22, Momochihama, Sawara-ku,  
Fukuoka City 814-0001

TEL 092-852-3455 FAX 092-852-3455

URL : <http://www.isit.or.jp> E-mail : [koryu@isit.or.jp](mailto:koryu@isit.or.jp)

印刷: (株)ドミックスコーポレーション



古紙配合率40%再生紙を使用しています